



今回の紙面

年頭のごあいさつ《吉川敏彦》

看護師さんのページ NO.20 《福原昌子さん》

島根大学「地域医療支援学講座」NO.3

地域医療最前線 NO.40 《小松泰介先生》

研修医のページ NO.24 《三島千明先生》

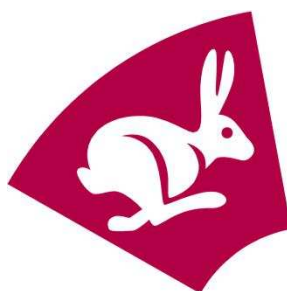
地域医療支援コーディネータ養成



年頭のごあいさつ

島根県健康福祉部医療政策課

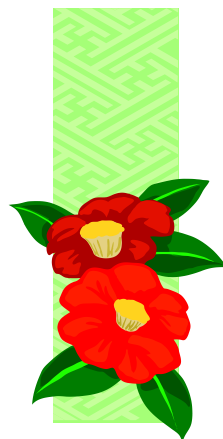
医師確保対策室長 吉川 敏彦



皆様、あ
けまして
おめでと
うござい
ます。旧年
中は、医療
政策課医
師確保対

策室に格別なるご支援、ご協力をい
ただきましてありがとうございます
た。本年も変わリませず、どうぞよ
ろしくお願い致します。

昨年は国の方針に基づく「島根県
地域医療再生計画」を策定し、即効
性のある医師、看護職員確保対策や
マンパワー不足を補うための対策を
強化しました。その中で、島根大学
医学部に「地域医療支援学講座」を
設置し、大学、県や市町村、地域医
療機関等が連携し、医学生に対する
地域医療へのモチベーションの喚起
医師のキャリアアップ、県内医療機
関で安心して働ける環境づくりの支
援も開始しました。



また、年末には国の補正予算で、
三次医療圏を対象とした地域医療再
生基金の拡充が打ち出され、島根県
ではこれに対応して県内医療提供体
制の充実に繋がる事業を構築してい
くことにしています。



一方で昨年十月に実施した「勤務
医師実態調査（対象 全病院と公立
診療所）」によりますと、県全体で2
48人の医師が不足しており、前年
に比べ不足数
は若干減少し
たものの、地域
別では大田圏
域で、診療科別
では、眼科、産

婦人科、小児科などで不足数が増加
しています。

このように医師の不足は依然とし
て厳しい状況にあります。本年も
一人でも多くの医師に県内に定着し
て頂けるよう、全力で取り組んでい
く所存ですので、皆様方の変わらぬ
ご支援、ご協力の程よろしくお願
い致します。

地
域
医
療
最
前
線

NO.40

出雲市民病院 院長 小松 泰介



当院は戦後間
もない1950年
に創設され、以後
市民のための病
院」を合い言葉に
施設展開を進めてきました(名称から
公立病院とよく間違われるのですが、
医療生協法人が運営しています)。現
在では法人内に出雲市民病院(一般1
80床)、出雲市民リハビリテーション病
院(回復期リハ棟110床)、大曲診
療所(無床)、および2つの訪問看護ス
テーション、通所介護事業所等を有し
ています。

当院は2001年にJR出雲市駅に程
近い現地に新築
移転いたしました。
出雲市の旧
市街の中心にあ
たり、ドーナツ
化現象により
周辺住民の高
齢化が進んでい

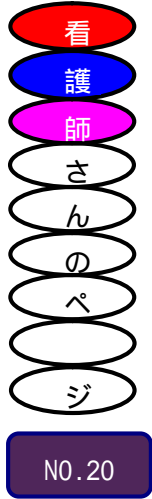


ます。受診される患者さんでも高齢の方が多く、医療機能としても必然的に高齢者の多様な健康問題に対する総合的な対応が求められています。

人口14万人の出雲市には高次医療機関として大学病院と県立中央病院の2病院があり、さらに開業医の先生方も多く、医療過疎化が進む県内においては有数の医療充足地域ではありません。しかし、その中にあっても急性期医療と、慢性期在宅医療との間を受け持つ医療機関は少ないのが現状です。こつした準急性期・亜急性期から慢性期維持期の医療へと連なる部分をしっかりと支え、質の高い総合的な医療を提供してゆくことを当院の主な任務ととらえています。

近年、全国で医療崩壊が叫ばれ、絶対的な医師数不足に加えて都市部への医師偏在による医療の地域間格差が問題となつています。県内においても各科専門医の不足が危機感を持つて議論されていますが、一方で当院のような中小病院や中山間地域の診療所の医療を支える総合医の不足もこれまで深刻です。当院は2004年の新臨床研修制度発足以来、小さいながらも臨床研修指定病院として10名の初期研修医を受け入れ、さらに2007年には家庭医養成後期研修プログラムを始動

させてきました。当プログラムの中心コンテンツは「病棟もみる家庭医の養成」です。地域に基盤をおいた中小病院での総合的な診療の中で、家庭医・総合医としてのアイデンティティを確立し、地域にこだわり、生涯にわたってモチベーションを保ちつつ包括的・継続的に診療を展開してゆける医師を養成してゆくことを目指しています。先般、当プログラムの第一期修了生から県内初となる家庭医療専門医が誕生しました。今後こつした若い先生方とともに、当院が家庭医・総合医養成を支えるベースとして機能し、島根の医療に少しでも貢献できればと考えています。



社団法人 益田市医師会立

益田地域医療センター 医師会病院

看護部長 福原 昌子

益田地域医療センター 医師会病院は、病床数343床（一般163床、医療療養病床44床、介護療養病床44床、回復期リハビリテーション病棟44床、特殊疾患病棟48床）、診療科9科の病院です。併設施設として、

益田市立介護老人保健施設くにさき苑（99床）、益田市医師会訪問看護ステーション、益田市医師会ホームヘルプ事業所、益田市医師会居宅介護支援事業所、益田市立在宅介護支援センターがあります。急性期から慢性期そして介護福祉施設と在宅サービスまで、安心して暮らせる地域住民の為にと4年ごとに施設が開設されました。平成20年には、働く職員の為に365日24時間体制の益田市医師会職員保育所（さくらんぼ保育所）が開設され、職員の利便が図られました。



看護部は急性期病棟3病棟、療養病棟2病棟、特殊疾患病棟1病棟、回復期リハビリテーション病棟1病棟、介護老人保健施設2療養棟を担当し、看護、介護職員は303名です。

昨年電子カルテ・オーダーリングが導入されましたが、納入業者の方も驚くほど、スムーズに移行できました。これもTQM活動を通じた、患者や職員にとって良いことはほとんど実践する職場風土や、職員間の協

力体制と連携の賜物と思います。今年度看護部では、職員が生き生きとし、良質（安心・安全・満足）な看護・介護の提供を目標に掲げて、看護・介護の質向上はもとより、接遇マナーの強化に焦点をあてています。

医師、看護職員等の育成については、医学生その他、看護学校3校、介護福祉科2校、リハビリテーション学校3校の実習を、また中・高校生の看護・医療体験実習を受け入れています。これらの学生等に気持ちよく実習して頂き、働いてみたい病院として選んでもらえるように改善や取り組みを行いました。

また、「患者さんに選ばれる病院」「活気ある病院」「働き甲斐のある病院」を目指し、看護部から院内及び地域にパワーを発信しています。今年8月から、看護部では広報委員会を作りブログをはじめました。益田の地で生活される方のために、地域や病院の行事などを楽しんで頂けるように頑張っていますので、是非ご覧ください。

益田地域医療センター 看護部のブログ

<http://nasudai-shi-kai-kango>

biog130.fc2.com

国立病院機構 浜田医療センター
1年目研修医 三島 千明

平成22年4月から、国立病院機構浜田医療センター（以下「当センター」）で研修医として勤務しています。当センターには1・2年目を合わせて10名の研修医がいます。島根大学・鳥取大学・産業医科大学出身者がおり、出身地も様々です。

当センターの研修の特徴として、まずプログラムの柔軟性が挙げられます。研修プログラム責任者は院長が担当し、定期的にミーティングを開いて、研修内容についてそれぞれの研修医と意見交換をしています。研修科目の変更も適宜可能で、私たちの希望に対して先生方がすぐに対応してくださいます。

当センターでは、日中から準夜勤におけるERは研修医が最初に対応します。まず、研修医が患者さんを診察し、検査をオーダーした後に各診療科へプレレゼンテーション・コンサルトを行います。当センターには地元の方だけでなく、島根県西部全体

からER受診があります。救急専門の医師が不在ですが、各診療科の先生方に指導して頂きながら、症例や手技を経験しています。

また、当センターには、病院のすぐ前に研修医宿舎が用意され、夜間いつでも病院へ行くことができ大変便利です。研修医同士が近くにいて、ことでお互い励まし合い、切磋琢磨しています。また週に一度アメリカ人講師による英会話教室があり、英語で医療面接などを練習する機会も用意されており、研修の合間により気分転換になります。

このように、当センターは研修プログラムが柔軟に変更可能なこと、また指導熱心な先生が多いこと、研修環境の整備に力を入れていることなどから、研修医にとって魅力的な病院だと思っています。

私が医学生の際は、どんな研修病院へ行けば良いのか色々と考えました。当センターで研修医としての第一歩を踏み出してから一年目の大半が過ぎ、今私は研修医それぞれのやる気や、努力する姿勢がまず何よりも大切であると感じています。そして、何よりも当センターには自分達で研修を作っていける楽しさがあります。どれだけ与えられた環境で力

を發揮できるかが自分にとってチャレンジだと思っています。

島根県西部は医師不足が深刻です。卒業後、島根県に残ることに私も当初迷った時期もありましたが、こういった状況の医療現場を体験することは自分の将来にとって非常に重要な経験になると、「島根がいい、特に西部に行きたい」とかなりポジティブな気持ちで希望しました。まだまだ研修医としても未熟ですが、まず、目の前の患者さんに信頼してもらえ、スマイルを忘れない医師になりたいと思います。

島根県内の諸先生方、医療スタッフの皆様、今後とも御指導よろしく御願いたします。

島根大学

「地域医療支援学講座」

【NO.3】

「地域医療交流サロンが開設しました」

島根大学「地域医療支援学講座」

学内講師 吉岡みち子

今年4月に島根県の寄附講座として開設された地域医療支援学講座では、地域枠推薦入学等の学生と地域の行政・病院との顔が見える交流の

場として利用して頂く「地域医療交流サロン」を開設しました。このサロンは、学生同士の交流の場として、また県内各地の行政や病院の情報提供の場として利用されています。大学内での各地のアンテナショップ的要素を取り入れ、楽しめる場としても工夫しています。

6月30日の開設式・上掲式以来、

県知事さんをはじめ、県内各地の市町村、医療機関の方と学生の交流会が催されました。今後も継続的に予定している地域もあります。また、学生・教員の交流会やセミナーも開催され、大いに利用されています。学生の勉強支援の一翼も担っています。地域の方には「今まで素通りしていた大学に拠り所となる場所がで



溝口島根県知事との交流



浜田市との交流会



きた」と喜ばれています。現在までに延べ200名の学生・地域の方々に利用されました。

このような交流により学生と地域、大学と地域が連携し、地域医療に関してモチベーションの高い学生を育て、県内の医師不足の解消に少しでも貢献できることを願っています。現在の場所は第4共同研究棟203号室ですが、近々地域医療支援講座隣に引越す予定です。さらに便利になります。近くにお越しの際にはぜひお寄りください。

地域医療支援コーディネータ養成

地域医療支援

コーディネータとして

2009年度入学 第1期生

菅森 暢之

藤井麻由美

吉岡みち子

吉田力ネ子



「地域医療支援コーディネータ養成コース」は、島根の医師不足等に対応する新たな人材育成を目的に、全国で初めて2009年度に島根大学大学院医学系研究科の修士課程として新設されたものです。第1期生

として入学した4名は、2年間の課程を修了し、この春卒業する予定です。

このコースの大きな柱である『地域医療実習』において、島根大学医学部附属病院及び県内すべての圏域に出向き、主な医療機関及び実習地の市町村や保健所で医療提供の現状を学び、そこで働くたくさんの方々に会いました。地域医療の概況、人材確保の取組、地域住民との関わりなどについて説明を受け、院長や若手医師等と意見交換をする中で、医師等の県内定着の課題やヒントを学んできました。

全国に先駆けて医師確保対策に取り組んでいる島根県ですが、医師不足は年々顕著となっております。これからの地域医療を守る取り組みは、県内唯一の医療機関である島根大学と、地域の医療機関、県や市町村がしっかりとスクラムを組み、地域に軸足を置いた方策を地道に展開していくことに尽きると感じています。

1期生4名は、卒業後は各々の職場、大田市・大田市立病院（菅森）、隠岐病院（吉田）、島大医学部地域医療支援学講座（吉岡）、県医療政策課（藤井）を基点に活動することとなります。地域医療を支援する立場と

して、行政や医療機関、地域住民との橋渡しの役割を担う人材となり、地域や医療現場の課題

を把握し、その解決のために誰と手を組んでどう展開するか検討していきたいと思っています。

『地域医療実習』において、地域医療の課題の広さや深さを痛切に感じている中、一人ひとりには微力ですが、島根大学との連携を構築しながら、様々な取組が円滑に進むよう、我々自身も連携していく必要があると話し合っているところです。

そして、私たちに続く2期生は2名であり、奥出雲町から横田と雲南総合病院から勝部が入学しています。今後は、県西部からもこのコースで学ぶ仲間が増え、地域の連携が強まることを願っています。



益田市実習を終えて市役所前にて
地域医療教育学講座
熊倉教授(左下)と学生6名



島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

